令和７年度第２回仙北市総合教育会議　会議録

開催日時　　令和８年３月９日（月）　午前１０時００分
開催場所　　仙北市役所田沢湖庁舎　３階　第１会議室
出 席 者

（構成員）

仙北市長	田　口　知　明
仙北市教育委員会教育長	須　田　　喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂　本　佐　穂
仙北市教育委員会委員	細　川　伸　也
仙北市教育委員会委員	田　口　桂一郎

（市長部局）

仙北市副市長	赤　上　陽　一
総務部長	大　澤　裕　司
総務課長	猪　本　博　範
総務課主査	大　石　貴　之

（教育委員会）

教育部長	阿　部　　聡
教育次長	斉　藤　丈　彦
教育総務課長	大　石　　基
学校適正配置準備室長	若　松　正　輝
学校適正配置準備室参事	梅　田　昌　輝
学校教育課長	戸　嶋　雅　美
学校教育課建設専門官	草　彌　雅　人

案　　件

（１）　学校適正配置計画（案）について

大澤総務部長　　ただいまから令和７年度第２回仙北市総合教育会議を開会いたします。はじめに会議の主催者であります田口市長から挨

拶をお願いいたします。

田口市長　　足元悪い中委員の皆様には、足をお運びいただきありがとうございます。

２月２４日から角館上野庁舎が供用開始されております。教育委員会も新しい環境でスタートいたしました。平成３年に建てられた旧角館総合病院の管理棟でありますけれども、おかげさまでほぼ新築のような状態となりました。

環境も良くなりましたので、職員一丸となって教育推進に努めてまいりたいと思います。本日は非常に大きな議案である学校適正配置についてご報告申し上げて、教育委員の皆様からご意見を賜りたいと思っております。

仙北市のこれからの学校のあり方そのものでありますので、私も先週西明寺中学校の卒業式にお邪魔させていただきましたが、本当に子供たちはふるさとを誇りに思っており、熱い思いで挨拶されていました。子供たちのために私達が今やらなければいけないと改めて自分の気持ちを決意させていただきました。教育に関わる本当に重要な内容になりますので、どうか忌憚のないご意見を賜れればと思います。

どうかよろしくお願いいたします。

大澤総務部長　　田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長　　本日ここに、田口市長、赤上副市長、大澤総務部長、教育委員の皆様参加のもと、令和７年度２回目の仙北市総合教育会議を開催できましたことに感謝申し上げます。

本日は、教育委員会事務局から、学校適正配置計画に係る最終計画案について提案させていただきます。

さて、学校適正配置準備室が教育委員会事務局内に開設されてから４年が経ちました。皆様、ご承知のとおり、本市の小・

中学校では児童生徒数が著しく減少し、また、多くの校舎で老朽化が進行しております。特に、近年、出生数が激減しており、このままでは仙北市の教育はままならぬ状態になってしまいます。そこで、将来にわたってより充実した学校教育環境を目指し策定したのが、学校適正配置計画案でございます。先日行われた学校適正配置検討委員会の意見書に基づいたものです。教育委員の皆様、並びに市当局の皆様からのご意見を賜り、それを基に議会全員協議会、そして最終的に仙北市教育委員会で最終案を策定する予定です。また、その他では、教員の働き方改革に伴い、文部科学省からその計画が義務化されている「業務等管理の実施計画」についてもご審議いただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

大澤総務部長　　教育長ありがとうございました。それでは協議案件に入ります。本日の案件は、１件となりますので、ここからの進行は、市長にお願いしたいと思います。

田口市長　　はい。それでは、ここからは私が進行を務めさせていただきます。

今回の議事録署名人は、須田教育長と細川委員のお二人にお願いしたいと思いますので、議事録が完成次第、署名をお願いすることになります。どうかよろしくお願いします。

それでは、協議案件の学校適正配置計（案）について説明をお願いします。

若松学校適正配置準備室長　　学校適正配置計画案について今回が最終案となります。

初めに今日までの経過について先に報告させていただきます。

１つ目は桧木内中学校の今後についてです。

前回１１月の総合教育会議では、桧木内中の現状と課題そして状況によっては、計画に基づく令和１１年度の統合を待たず

に西明寺中へ編入による統合を検討する可能性があるということを報告しておりました。

その後の経過報告として、２月１７日から２５日にかけて西木地区の４つの小・中学校の PTA で説明した資料となります。

１２月には指定校変更に係る申請の審査会という手続きがありました。この際に桧木内小学校の６年生の保護者から７人全員が指定校変更の申請が提出されて、審査の結果許可となりました。これによって令和８年度の桧木内中の入学者はゼロとなりました。

それを受けて今年１月西明寺中、桧木内中の統合に関する意向調査および意見交換を行いました。対象としたのは、令和９，１０年度に中学校に在籍する桧木内小４年生から桧木内中１年生の保護者です。

意向調査の結果、８５%の方が統合を望み、７３%は令和９年度に統合を望むという結果となりました。この結果を踏まえた意見交換を行い、統合の方向で検討を進めていくことを確認し合ったところであります。

２月に地域住民も含めた説明会を行いました。

その結果、地域から突然学校がなくなってしまうという話で、寂しいという意見があり、住民の気持ちがひしひしと伝わってきたところでありますが、子供たちと保護者の意向を尊重して統合する方向で検討を進めていくことに理解を示していただきました。

令和７年度の児童生徒数の見込み、小学校６年生７人全員が他の学校へ行くこと、下の子供たちも今回の状況を踏まえると同じような傾向が生じる可能性があるという中で今回、編入統合を考えていくということにしたことを説明しました。

統合計画に基づくイメージについては、特に意見質問等ありませんでした。

学校適正配置計画に向けた最終調整として、中学校統合の組み合わせをどうするか。つまり生保内中を統合するのか、当面

存続させるのかということです。これを検討判断していくために、昨年１０月から今年１月までの４ヶ月をかけて、生保内学区の皆さんと計６回、様々な視点から意見交換を行いました。簡潔に載せておりますけれども、様々な心配、学校や地域への熱い思いも含めて、多くのご意見をいただいたところです。また、ご来場いただけなかった保護者に対しては、後日資料と要点をまとめた報告書をお送りし、意見交換した内容の情報共有を図ってまいりました。

このような形で、保護者を中心に地域の皆様に様々な視点からじっくり考えていただくため情報提供し、対話の機会を作り、また十分な時間を設けてきたところです。

その上で２月下旬統合に直接関係する子供の保護者の意向をより重視して検討判断していくために、意向調査を実施しました。

この度集計結果がまとまりましたので報告いたします。

梅田学校適正配置準備室参事

対象は令和１１年度以降にお子さんが中学校に関わるだしのこ園、生保内小学校１年生から５年生の保護者でお子さんが何人いても１世帯と数えさせていただきました。１２２世帯対象で１０６世帯の保護者の方、８６．８%の方にご回答いただきました。

各項目で一番多いのは、単独で存続３０．２%となっております。どちらかといえばという選択肢も含めてみますと、統合は４８．１%。単独は５０．０%となっております。

自由記述の方は記載の通りです。

若松学校適正配置準備室長

今回約８７%の保護者の意向が可視化されました。統合か存続かについては、合計するとほぼ同数という結果でしたけれども、意向の程度を加味すると、存続を望む意向がより多いと捉えることができると思います。自由記述を見ますと、どれもが共感できるような内容でした。

昨年７月には教職員のアンケートも行い、大人数の良さ、教育効果など７割の方が支持しているという意見、そうした意見も踏まえて、保護者の皆さん本当に悩んで深く考えていただいた結果であると受け止めております。

全体としては、いずれは統合が必要になる時期が来るという認識は持っている記述が多かったですけれども、存続を望む方にはまだ早いという記述が多く見られたところです。保護者の方の意見交換の際にも意見としてありましたけれども、統合すれば後戻りできない、踏みとどまれば将来に選択肢を残すことができるという意見もあり、総合的に考え、今は存続した方がいいと判断いたしました。

資料の４これが学校適正配置計画の最終案という形になります。本計画の策定から概ね１０年先まで継続できる形を目指していくとしましたが、中学校については学区外への就学指定校変更等を希望する傾向が顕著に表れたり、複式学級の発生が予想されたりする場合には、統合の検討に入るという記述を加えました。

これは、この度の桧木内中学校のことも踏まえてそういった可能性も考えてこのように加えました。

最終案の再編内容は、令和９年度に桧木内中学校を西明寺中学校に編入する第１次統合を行って、令和１１年度には神代中学校と第２次統合を行う２段階の統合となります。統合で使用する校舎は第１次統合については、西明寺中学校をそのまま使用し、第２次統合では、神代小学校を改修することになります。

令和８年度については西明寺中と桧木内中の編入に向けた統合準備委員会を設置しまして、通学体制等を協議していきます。校名、校舎、校旗、校歌等は西明寺中のものを用いますので協議事項から外れますが、通学体制、学校行事関係、あとは学用品関係のすり合わせが必要となります。

そして令和９年度に第１次統合を行い、そして令和１１年

度には第２次統合として、計画通り行います。

本計画によって廃止となる学校施設は、長年にわたって地域コミュニティの拠点としての役割も担ってきた施設であることから、廃止となる学校施設および敷地については計画策定後、地域住民の御意見を聞きながら、利活用を含めた廃校後のあり方を様々な視点から検討していくということにしております。

田口市長　　ただいま説明がありました桧木内中学校が西明寺中学校に令和９年度に統合で検討していくということ。また、生保内での意見交換の中で調査した結果、単独存続が５０％、統合は４８％という結果が出たのを踏まえて生保内中学校の単独存続ということになりました。皆さんからの意見を踏まえた上で議員全員協議会にかけていきたいと思います。

細川委員　　生保内中の意向調査の結果を踏まえて、ここまで皆さんに頑張っていただきたいとは思うが、このような結果になってしまったのが少し残念かなという気持ちはある。地域の方にしてみればこの結果は非常に嬉しかったのかなと思いますけれども、児童が減少して、これからも減少していくので、１０年先でなく、１０年前倒しでもしかすればまた再統合という形になるのかなと思いました。

田口市長　　はい。ありがとうございます。では、田口委員お願いします。

田口委員　　調査では、未回答が若干ありましたけれども、統合推進の方が若干上回っていた結果でありました。その後も丁寧に要望あるいは一番不安である通学の利便性についてもかなり詳しく提案をして、説明を繰り返し、統合に関係する保護者への説明、意見聴取、アンケートを繰り返してきた中で、最終

的な結果が残念ながら存続が半数を占めたということで、統合が増えなかったという点については、やはり残念であります。

ただ、この意見を見てみますと、その立場に立てばもっともな意見です。やはり地元の保護者の立場に立って考えたときに、ここに書かれてあることは決して反対できるものではない。将来の子供たちの教育環境の充実を求めてあるいは持続可能な教育環境を求めて統合やむなしという形で、その統合のメリットを訴えてきたわけですけれども、これはこれとして、反対側も理解してないわけではないと思います。ただ、今優先したいのは自分たちの考える存続を願うこの思いの方が大きかった。意向として大きいということだと思います。決して統合に反対ではなくて、統合もわかるけれども、今はこの思いを大事にしてもらいたいという訴えだと考えると、長い年月をかけて説明を繰り返し、協議を重ねてきたわけですけれども、最終的にこういう意見になったということは教育委員会としては、住民の声を大事にしてきたスタンスを考えると、この声は大事にしなければいけないのかなと考えております。

この結論はやむを得ないと思います。

田口市長　　はい、ありがとうございます。では、坂本委員お願いします。

坂本教育長職務代理者　最初に桧木内中と西明寺中の統合に関しての意見ですけれども、８年度にはひのきないこども園が休園、その翌年には中学校が統合し、その翌年には小学校がなくなり、ものすごい勢いで地元から子供たちの姿が見えなくなるという現実が地域の人たちはきっとあると思う。今後、総合して、人数の多い学校に行ってよかった、楽しいという子供たちの声を聞くことが何よりも地域の方への恩返しになると思いますの

で、そのような環境を作っていけるように我々も頑張っていかないといけないなと思いました。

生保内中の統合に関しては、まだ複雑な気持ちが消せない状態です。今までずっと４校統合という思いで進めてまいりましたので、ここに来て、存続ということで、よかったなってまだ心から言えないところが実はあります。今後、生徒の数が減っていくっていうことへの懸念もありますし、ただ、市民の方たちの意見、地域の方たちの意見でそのような結果になったということで、決してこれは行政主導、教育委員会主導ではなかったと。市民の方たちも声を上げることによって自分たちの意見を変えていけることができることを御理解していただけるのではないかと思います。

今後、生保内中学校が少人数で存続していくことになりますけれども、その良さも生かしつつ、いずれ長い目で見たときに、統合するということも考えながら、今後も進めていかなければならないと思います。

田口市長　　３人の委員の皆さんおっしゃっていただいている通りかなと思います。今までの経緯を考えると、４校統合が見えている状態でもう最後の最後で反対という動きがあって、先ほど報告にもありましたけれども、１月２２日の説明会に参加させていただきましたが、２５名の方が出席され、１名以外全員が統合反対という感じでありました。私がちょっと残念だったのは私に聞こえてきた後半の説明会の中で教育委員会の説明の仕方が不十分、結論ありき、教職員の意見をなぜこのアンケート調査に付帯するのか等、言ってみれば言いがかりでとにかくその統合させたくないという思いが強いせいか、そこに批判が向けられたのは非常に残念だったなと思います。

私が望んでいたのは、できれば統合を賛成または単独を望む父兄たちが来て、それぞれの意見を交わして、これは多分

委員の皆さんおっしゃっている通り、正しい結論はないのかなと統合しないに越したことはないわけで、必要だから今まで学校があったわけですけれども、それを一緒にするというのは、本当に子供の数が減って、苦肉の策、断腸の思いで学校を統合するということなので、ただそこにはそれぞれの思いを持った父兄の皆さんの意見を交わすことができたとしたらよかったなと思う。どうしても表に出てくるのは統合反対、賛成の方が出てきてもご意見を言っていただけない。唯一で２５人のうち１人女性の御父兄の方が「私は統合賛成だ」と勇気を持ってその場でお話していただきましたけれども、この状況を見るとやはり今回のアンケート調査の結果になってしまったのかなと思います。

委員の皆さん懸念している通りこれが「あのとき統合しなくてよかった。」という結果になればいいのですけれども、「あのとき統合しておいた方が良かった。」とならないことを当然市としても今後、生保内中学校の存続については、何とか子供を増やす取り組みをしなければいけません。１年でも長く存続していくために取り組む必要がありますけれども、先ほど委員からもお話があった通り市民の最終的な希望ということでありますので、私も非常に複雑な思いを持っておりますけれども、まずこのアンケート調査が全てかなと思っております。

須田教育長　　先日の最終の適正配置検討委員会でも様々な議論がありました。単に事務局案がすんなり通るということではありませんでした。

ただ、生保内地区代表の方々から出されたのは、９月あたりにこちらの事務局案が初めて出された段階で、さほど関心がなかった保護者、そして生保内地区の市民、住民も本気になって、考えるようになったと。それで非常に盛り上がった議論となったということは言っておりました。ただ、これが最終ではない

ということも話が出されました。つまり、子供の数が減ったときに、今後、この生保内地区の学校をどう盛り上げていくかについては、相当の人たちが関心を持っただろうし、関わっていかなければいけないということも確認されたと思う。そこは非常に期待したいという話も出たところでございます。

もう一点は、これもかなり議論となったのが、１０年後にこの検討委員会を立ち上げるのは多分遅いだろうという話も出されました。ここに明記するかについても話し合いがなされましたけども、少なくても５年後辺りにはもう一度検討委員会を立ち上げて、話をしていく必要があるではないかということもその中では確認されました。ただ、生保内地区の保護者と議論を重ねたところでは、人数が多い方がいいということはわかるし、いずれは統合しなければいけないってこともわかるけども、今ではないという話も相当数出されましたのでこれについては、教育長の申し送り事項として話を進めていかなければいけないかなと思っておるところでございます。

田口市長　　それでは案件につきまして、このような形でよろしいでしょうか。それでは、その他で何かございますか。

斉藤教育次長　　市立学校の教職員に関する業務管理健康確保措置実施計画について報告させていただきます。

本計画は、国が令和７年６月に公立の義務教育小学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法を一部改正し、学校における働き方改革の更なる加速化に向けて、教育委員会が講ずべき措置として、当該教育委員会は服務を観測する教職員の業務量の適切な管理その他健康および福祉の確保を図るために講ずるべき措置の実施に関する計画を定めることとしたものによるものであります。

これにより、教育委員会に課せられた義務は３点あります。

１点目は、業務量管理健康確保措置実施計画を策定し、令

和８年４月からの施行とすること。

２点目は本計画の実施状況について総合教育会議で報告する。

３点目は、本計画の実施状況についてホームページ等で公開することであります。

本計画の作成につきましては、教職員の人事異動が多い大仙市、美郷町と協議し、共通の目標および内容にしております。令和１１年度までに達成すべき目標に５項目を掲げております。また本計画を市校長会で提示説明し、了承を得るとともに、教育委員会内において、教育委員の皆様方にご検討していただき、了承をいただいております。

今後につきましては、令和８年４月からの施行に向け、市内各小・中学校に本計画について周知し、理解促進を図るとともに、各校における時間外在校等時間削減に向け、市教育委員会が伴走支援をしながら、令和１１年度までの目標達成に向けて、学校と一体になって取り組んでまいります。

また本計画の目的であります教職員が心身ともに健康な状態で専門性を発揮しながら、生き生きと子供たちと向き合うことができるよう、働きやすさと働きがいを両立させた魅力的な職場環境を実現し、学校教育の質の向上に努めてまいりたいと思います。

田口委員　　教育定例会議、理事会定例会でも協議をされて、意見も見さしていただきました。

感想を述べさせていただきましたけれども、せっかくの機会ですので、ちょっと重なることがありますけれども述べさせてもらいます。

私も現場にいた者として、１０年以上前からこのことについてはできることを実施してきたわけで、そのときから比べると１０年以上は経っていますが、牛歩の歩みではありますが、少しずつ国も県も市も学校自体も職員自体の意識も少し

ずつ変化してきているのかなというふうには思います。ただ、現状を見ますと、教職員希望者が全国的に減っていて、秋田県の人事配置にも影響してきているというような話を聞いております。希望の持てる職場にするためにまた人材がたくさん希望できるように、また現状で働いている先生方が希望や夢を持って子供たちに接していかなければ安心安全な、本当に豊かな教育もできないと思います。かねてから教育長は人的な教育の環境の一番の環境は人的環境だというふうにおっしゃっていますので先生方が十分に力を発揮できる環境作りをするためにも、この働き方改革は、必須の取り組みだと思います。

教育委員会に課された事務も多いわけですけれども、この計画内容はその通りだと思いますし、これが着実に実施されていけば職場も改善していくと思いますので、状況を的確に把握しながら、それを現場にアドバイスしていく。あるいは、そのための予算配置をする、人的配置をする環境を整えていくという大きな責任も教育委員会には課せられていると思いますので、この計画が実のある計画になりますように応援していただければありがたいなと思います。

教育長　　学校だけではこの削減はできません。田口委員もおっしゃっていましたけども、人的な配置等についてサポートをしてもらわないと厳しい状況にあります。県教委の方にもお願いしなければいけないのは、実は今回ある小学校で欠員が２名出たことによって業務量が昨年に比べて大幅に増えたということもありました。これについては県教委に、今回の人事もそうですけども、欠員を出さないような努力をしてほしいということを願わなければいけないと思います。

あわせて市当局の方にお願いですけども、本当にいろんなとこが削減なっていますけども、仙北市独自で学校サポートで使用する予算もたくさんあります。その部分について、ぜ

ひ継続していただければ、この数値も可能となると思いますのでよろしくお願いしたいなと思っている。

あともう１つは、ヤマメサクラマスプロジェクトの一環としてやはり子供たちに先生方の職業は素晴らしいのだっていうところを、子供たちにわかってもらって、仙北市から多くの先生が生まれることを私は願っている。それでもって地元愛や、ここで働く、いわゆるそのような人が増えることによる良さはたくさんあると思いますので、それは私どもの使命かと思っているところでございます。

田口市長　　はい。他によろしいですか。そうすれば恒例になりますが、参加の方から一言ずつ、佐々木次長からお願いします。

斉藤教育次長　学校適正配置に関しましてアンケート結果を見て、どちらの立場の意見もかなり重いなと思います。この計画を概ね１０年先まで見据えた上でやっているわけですけども、やはり学外の区域外就学の変更であるとか、複式はもう完全に免れないような状況になっておりますので、変化を見据えた上で、この間の適正配置検討委員会の中で委員の方がおっしゃっていたのですが、毎年この検討会やってもいいじゃないかっていう声がありました。

その状況をやっぱり地域の皆様方にも報告しつつ、毎年検討を重ねて、統廃合するかの検討会を数年後に開くという流れもあるかなと思っています。

阿部教育部長　計画についてはこのような形ということで、教育委員会では、学校教育については誰も取り残さない教育というのが基本の理念でございました。

学校統合は様々あろうとも、そこに通う子供たちそれから保護者、地域の皆さんが「おれほの学校はいいとこだ。」と思ってもらえるようなところを作らないといけないと思いま

す。その理念は考え方ではみんな同じだと思いますのでそこの歩みを一緒に持ちながら進み方を強め、一歩一歩やっていきたいということを改めて感じたところでございます。

赤上副市長　　まずもって、結果はこのような形ですけども、これまでの過程と努力も敬意を表したいなと思います。子供たちに夢と希望にあふれる学校になっていただきたいなと思うし、そこを大人がいいかにしてサポートしていくかがこれから大切になると思います。

大澤総務部長　　私も説明会に何回か参加させていただきました。その中で後半、生保内中学校の問題に関しては、まち作りっていうキーワードが非常に出てきました。いろいろな意見を聞く中で心を打たれることもありました。地域に学校がなくなることの重みを非常に感じたというのが正直なところです。

人口が減少してきて結果、学校があるに越したことはないにしても、やむを得ずこういう状況になっているっていう説明を散々してもらっていますけど、やはり存続の願いが強かったと思います。

人口にしても生保内地区は第２の地区でもありますので、やはり人口が多いところにはわからない気持ちも当然あったと思いますので、そこはやはり尊重するしかないのかなというふうに思います。

私個人としてはやはりまち作りの視点っていうことを、今回本当にいい経験いただきましたので、そこは勉強になりました。

猪本総務課長　　私からはまずこの計画案、ここまできたこと大変お疲れ様でした。ただ、この方向性を出す際に、同時に金額の議論もした方がいいかと思いますので、次回からそこも踏まえてできればと思います。

草薙建設専門官　私からは統合小学校の改修事業について少しお話させていただきます。タイムスケジュールでいきますと、令和８年度実施設計、令和９年度改修工事になっております。

改修工事は子供たちが学校で生活している中で行われることから各工種の工程調整や安全対策など、来年度の実施設計の中で十分検討を行い、スムーズに改修工事の方に入っていけるよう、また、無事に令和１０年度に統合を向えることができるようしっかりと対策を講じていきたいと思います。

梅田学校適正配置準備室参事　学校現場にいればわからないような大変さがすごく感じられました。生保内が単独で残ることになりましたが、本来あるべき形を提案してきたということや、統合を強く思っている方もいて、その人たちの思いもちゃんと受け取ってもらって、これから進めていってほしいなと思っております。

若松学校適正配置準備室長　ここまで来たわけですけども全員賛成ということもないですし、またベストというのもないなと思います。

最終案となりましたので、これからご理解いただけますように、ご説明に尽くしていきたいと思います。

湯澤教育総務課長　今回５０%の単独という方々の気持ちは非常にわかるのですけれども、おそらくこの統合するであろうと思っている方々が参加しなかった人もいると思う。今後はこの人たちの声が大きくなってくるのかなというところはありますので、そういう人たちのこともケアしていかなければいけないのかなと感じております。

戸嶋学校教育課長　今専門官の話にもありましたけれども、学校教育課はその校舎改修に急ピッチで取りかかっていかないといけないと考えてございます。

それからスクールバスの運用ですけれども今までにない本数、台数を抱えることになりますのでそちらの準備もあります。正直なところ、生保内からのバス運行は道路が１本ですごく心配していたところはあります。

佐々木主事　　本日の会議で決定最終的な計画案ということでありますが今後の最終調整や、計画の実現に向けては教育委員会の皆様と市の当局の様々な調整や協議があると思うので、会議開催や正確な記録に努めたいと思います。

田口市長　　皆さんありがとうございました。それぞれの意見がありました。私も１月２５日の説明会に行ったときに２５名が来ていて確かに統合反対、存続するべきだということで総務部長が言ったまちづくりを言われると、市長として生保内地区のまちづくりは暗いなんて言えない。明るい未来しか語れません。なかなかうまい戦略だったなと思われますが、そのときに私がすごく思ったのはマザーテレサの愛の反対語はという有名な言葉があります。

愛の反対語は恨みでも憎しみでも戦争でもないし、無関心だと。だから、関心を持つということが、言ってみれば愛なんだというのを考えたときに、２０代後半から３０代の父兄２５名が、この生保内中学校の存続統合で集まって、いろいろ意見を出していたのは、私は非常に希望を感じました。

あなたたちがもっと前に出てくるべきだと思いましたし、そういった関心を持って、今回は自分の子供の将来育成に関わることなので当然関心持ったと思いますけれども、それ以外の部分でも仙北市っていうこれからの自分たちのふるさとどうなっていくのか。そういったことに関心を持っていただければ、仙北市はますますいい方向にいくだろうなというふうに思いました。今回こういう形で最後結論になりましたけれども先ほども言いましたが、この結論が結果、子供たちにとって本当よ

かったと言える結果に我々はこれから持っていかなければなりませんので、ここから気持ちを切り替えて生保内中学校の教育環境の充実といったものもしっかり取り組んでいければなというふうに思います。本当に皆さんから貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。

それではこれで審議を終わらせていただきたいと思います。

大澤総務部長　はい、田口市長ありがとうございました。様々なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。それではこれをもちまして、令和７年度第２回仙北市総合教育会議を終了いたします。

（午前１１時００分終了）

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員